

### Pick up イベント

#### 哲学ファシリテーター入門～哲学カフェを開きたい人のために～

日時：8月21日（土）／28日（土）

場所：とよなか国際交流センター

講師：松川絵里、本間直樹、中川雅道、高橋綾

進行：井尻貴子

今夏、カフェフィロは初のセミナーを開催した。題して「哲学ファシリテーター入門～哲学カフェを開いてみたい人のために～」。哲学カフェは多くの方にご参加いただいているが、セミナー、そして有料ともなると受講希望者はいるのだろうか、という懸念をよそに、毎回とも定員を上回る方にお申し込みいただいた。

セミナーは、(1)〈哲学カフェ入門〉、(2)〈本を題材に考える〉、(3)〈thinking skills〉、(4)〈哲学的問答法〉の全4回。各回とも、異なるアプローチながら「哲学的対話」とはどのようなものか、進行役はどのようなことをするのかをわかりやすく体感していただける内容を目指した。たとえば、初回の〈哲学カフェ入門〉では、哲学カフェの歴史を簡単に振り返った後、パワーポイントを用い、講師の松川がこれまでに経験した哲学カフェのエピソードを交えながら進行役の心得を説明した。また、参加者とともに「問いをたてる」というワークにも挑戦した。受講生からは『「話すこと、聴くこと、理解すること、考えること」のすべてを行わないと“対話”することはできないと実感した」、「意見を言うことと進行することはまったく別のことだと思った」などといった感想をいただいた。

対話は常に「ナマモノ」であり、すべてが進行役の思い通りに運ぶわけではない。対話を生み出すのは参加者である。しかし、その場に「進行役」としている者は、どのような態度であるいは志でその対話の道行を見守るか、介添えするか、挑むか・・・が問われる。

〈本を題材に考える〉を担当した本間講師の「(進行役は) 安易な妥協をするべきではない」という言葉が、進行役の一つのあり方を示しているように思う。

カフェフィロでは、今後も継続してこのようなセミナーを開催していきたいと考えている。

(報告：井尻貴子)



28日、〈哲学的問答法〉(講師：高橋綾)の様子。一人の回答者に対して、他の人たちが交代で質問を投げかけながら、対話の基礎となる「問答」について学ぶ。この日の最初の問いは、〈哲学カフェ入門〉のワークでたてられた「男と女の間に友情は成り立つか?」。受講者からは、「質問することがこんなに難しいなんて」と驚きの声があがった。

#### 【とよなか国際交流センター】

今回の会場となった「とよなか国際交流センター」は「世界と、未来に向けて国際交流の新たな波を発信し、共に生きる社会の実現をめざす新しい市民文化の交流拠点」として、1993年に開設された。2009年より開催している哲学カフェでは、哲学的対話とともに世界のお茶を楽しむことができる。

#### メンバーコラム

#### パリの哲学カフェ

本間直樹

日曜の朝、カフェ・デ・ファールの名前が記された小さなカフェテーブルを囲んで人々がひしめき合っている。ようやく奥の席に腰をねじ込んだと思ったが、今度はギャルソンに声が届かず、コーヒーマグを注文するのもままならない。そうこうするうちに、店内で唸りをあげるエスプレッソマシンに抵抗するがごとく、マイクが客に呼びかける――「始めましょう。今日はどなたがテーマを提案しますか?」。

私がパリで足しげく哲学カフェに通ったのは、二〇〇三年から一年間フランスに滞在していた頃だった。滞在中、マルク・ソーテの後継者と目されるチリ出身の哲学者ダニエル・ラミレス(スペイン語発音ではラミレス)と知り合うことができ、彼の主催する哲学カフェにほとんど毎回私は顔を出していた。私が日本で行っている哲学カフェの様子を彼に伝えたところ、「哲学カフェは対話ではない、討論だ」とラミレスは喝破した。確かに、ソーテやラミレスは対話の進行役を演じるのではなく、客一人一人との一騎打ちを楽しんでいる。専門知識を極力使わないにせよ、論証こそが哲学の命だといわんばかり。確かに、哲学者との討論を楽しむ場という哲学カフェの定義は分かりやすい。哲学することが人々のあいだで生きているからこそ、そのような場が華やくだろう。日本での私たちのやり方といえば、むしろ哲学者は聴き手に回り、論じ合うのは参加者どうし。それゆえ、導き手のないまま迷路に放り出されることも少なくない。進行役がもつと議論をリードしてはどうか、という声も聴こえて来る。人々は迷う。それでも哲学者は導かない。これもまた捨て難い面白さだ。哲学のもう一つの可能性がそこにあると私は信じている。

#### 【本間直樹】

カフェフィロ副代表／大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授。

すぐれたデザインってどういうものなんだろう。今回のテーマ「身のまわりのデザイン」について考えるにあたって、はじめにそんなトピックから哲学カフェを始めてみた。

「やっぱり使いやすいさが重要では？」「いや、でもかっこよさとか見た目も大事」「この前訪れた美術館は、見た目はきれいなものかもしれないが、足腰の弱い身には不便だった」「モノを安心して使う上で、安全性が欠かせないのでは？」「しかし競技などを考えると、逆にリスクがあるからこそ醍醐味もあるのでは？」などなど、繰り広げられるさまざまな発言に、モノのデザインの奥深さをあらためて実感した。

また、安藤忠雄の出世作の「住吉の長屋」では、住居の中央に吹きさらしの中庭があって、雨のときには住居内での移動に傘が必要になる。そのような（実際に住むとなると確実に不便そう）住居について、ある参加者からは、「自分はアウトドア派なので、べつに苦にならない。そういう自然と触れ合える住居はいいと思う」という意見が出た。モノのデザインは、いくつかの基準だけで測れるものではなく、その人の生き方や人生観とも結びついていることを考えさせられる発言だった。

これまでサイエンスカフェは少なからず主催したり参加したりしてきたのだが、ちよつと勝手が違って、サイエンスカフェと哲学カフェの違いについても考えさせられた。とくにサイエンスカフェでは、自由で率直な対話・議論を重視しながらも、専門家からの情報提供が前提となる（ただし、だれがその問題の

専門家なのか、ということも同時に問題になるのだが）。両者をどううまく組み合わせたいくのがサイエンスカフェの成功を左右する。哲学カフェでは、参加者が期待するものはいふん違うように思える。ゲストの担う役割についてもあらためて考えさせられた、充実した時間だった。（報告…中村征樹）

【中之島哲学コレージュ】

八月三日 哲学カフェ「再生医療技術を考える」

岩江荘介、小菅雅行

八月二五日 セミナー

「当事者による／当事者のための技術」

久住純司、田坂さつき、水谷光、中岡成文

九月八日 哲学カフェ「身のまわりのもののデザイン」

中村征樹

九月二九日 セミナー「TO PEG OR NOT TO PEG」

藤本啓子



京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」地下構内に設けられたアートエリアB1にて。この日の参加者は約50名。中央は、ゲストの中村征樹さん（大阪大学大学教育実践センター准教授）。

## 2010年8月～9月活動一覧

- 8月1日 哲学カフェ「老いるってよくないこと？」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 8月3日 哲学カフェ「再生医療技術を考える」 アートエリアB1 岩江荘介、小菅雅行
- 8月7日 哲学カフェ「学校教育の存在理由」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
- 8月16日 哲学カフェ「人はなぜ描くのか？」 Planet 3rd 高円寺店 井尻貴子
- 8月21・28日 セミナー：哲学ファシリテーター入門 とよなか国際交流センター 松川絵里、本間直樹、中川雅道、高橋綾、井尻貴子
- 8月22日 シネマ哲学カフェ『ラフン・タフ永遠のリディムの創始者たち』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 8月22日 哲学カフェ「めんどくさいとは？」 クロスロードカフェ 山口真理子
- 8月25日 セミナー「当事者による／当事者のための技術」 オレンジショップ 久住純司、田坂さつき、水谷光、中岡成文
- 8月28・29日 哲学ライブ！ ろふとほうるザンマイムイ 小林壮路、双木洋介、桑原英之
- 9月5日 哲学カフェ「音と声の違いとは？」 旧岡田家住宅・土間 榎本直樹
- 9月8日 哲学カフェ「身のまわりのもののデザイン」 アートエリアB1 中村征樹
- 9月12日 哲学カフェ「他人のこころの痛みて理解できる？」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 9月18日 哲学カフェ「先生は偉いか？」 とよなか国際交流センター 川崎唯史
- 9月19日 哲学カフェ「人とのつながりとは？」 コーヒーショップJUN 深田千晃
- 9月21日 哲学カフェ「ふつうって何？」神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 9月22日 〈テツドク！〉：デカルト『省察』 さする庵 桑原英之
- 9月25日 哲学カフェ「よく生きるとは？」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
- 9月26日 シネマ哲学カフェ『何も変えてはならない』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 9月26日 メディカルカフェ「尊厳死について」 カフェP/S 浜渦辰二、藤本啓子
- 9月29日 セミナー「TO PEG OR NOT TO PEG？」 アートエリアB1 藤本啓子

## 賛助会員 募集中！

カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくださる賛助会員（年会費3,000円）を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶瓦版』（隔月発行）をお送りします。詳しく [info@cafephilo.jp](mailto:info@cafephilo.jp) まで。

### CAFÉ PHILO（カフェフィロ）

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒537-0023 大阪市東成区玉津 3丁目8-6ロイヤル丸文Ⅱ406号室 たまてぼこ内

e-mail: [info@cafephilo.jp](mailto:info@cafephilo.jp) <http://www.cafephilo.jp>

哲学喫茶瓦版 2010年10月20日発行

発行人：高橋綾 編集・デザイン：松川絵里

